

## 2022年度 つむぎ 横浜西ロルーム 職員アンケート改善策報告

いつもつむぎをご利用いただき、ありがとうございます。職員アンケートの結果および改善策の報告をいたします。  
 今後も支援の質向上に努めてまいりますので、お気づきの点などございましたら、施設長またはスタッフにお気軽にお知らせください。

		質問内容	平均スコア	改善策・ご意見への対応について
体制設備・環境について	Q2	入口や支援室、カフェ、トイレなど、ルーム内は清潔、整理整頓され、子どもが活動するにあたり安全な環境であるか。	4.0	子どもたちにとって必要な環境は何かを自分たちに問いかけ、不要なものは処分し、必要なものを用意できるように日々環境を見直してまいります。
	Q3	職員の配置数、職員の専門性は適切であるか。	2.2	採用活動を十分にを行い、スタッフ体制を整え、安心して業務に従事できるよう努めてまいります。
	Q4	業務中の休憩および休暇は適切に取れているか。	3.0	互いに業務の進捗を伝えあい、業務効率化を図ることで、休憩時間の確保ができるようにしてまいります。
	Q5	ルーム内の環境や支援員の人員体制について、ご意見をお聞かせください。		
業務改善について	Q6	業務改善を進めるためのPDCAサイクルに、広く職員が参加しているか。	3.8	業務効率化を図るために、自分の得意とすることを他のスタッフに伝え教えあうことができています。今後もチームでPDCAできるよう努めてまいります。
	Q7	保護者にアンケート調査等を行い、保護者の意向や意見を把握し、業務改善につなげているか。	4.5	保護者様からいただいたご意見を、全スタッフで共有および会議で検討します。またいただいたご意見にどのように対応したかを保護者様の同意を得て掲示するようにいたします。
	Q8	この自己評価表の結果を事業所内掲示やホームページなどで公開しているか。	4.2	事業所内の分かりやすい箇所に掲示するように努めます。また、分かりにくい質問項目を検証し、共通理解したうえで質問への回答がしていけるようにします。
	Q9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3.3	必要に応じて第三者評価による外部評価を検討します。また法人内の内部監査を受け、指摘事項に対しての改善に努めます。
	Q10	職員の資質、療育スキル向上のため研修の機会を確保しているか。	3.8	子育てスキル講座など、横浜西ロルームの参考になるものについては、施設長から積極的な参加を呼びかけます。
	Q11	業務改善について、ご意見をお聞かせください。		
適切な支援の提供について	Q12	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	3.5	現在、必要に応じてJSIRなどの実施を事業所側から提案しています。今後も、その子にとって必要であると思われる場合には、標準化されたアセスメントツールに基づき支援に活かしていきたいと思えます。
	Q13	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で個別支援計画を作成しているか。	4.3	子どもや保護者様のニーズを分析し、個別支援計画を立案してまいります。また、子どもを取り巻く環境にも注目し、ニーズを達成していくための合理的配慮も支援の一部として取り入れていきます。
	Q14	グループ活動や個別支援のプログラムは、支援目標に沿ったものになっているか。	4.5	個別支援計画に基づいた活動の振り返りおよび次回の活動の検討を徹底するようにします。
	Q15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4.2	今後も、お子さまの『やりたい』という思いに、寄り添いながら遊びや活動を展開していくことで、活動が固定化しないよう努めてまいります。
	Q16	プログラム開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる内容や役割分担について確認しているか。	4.2	お子さまの興味関心を捉えながら発達を促していくための適切な環境となるよう、スタッフ間での事前打ち合わせを入念に行うようにいたします。
	Q17	支援終了後には、職員間で必ず支援の振り返りを行い、気づいた点などを共有しているか。	2.8	可能な限り当日中に振り返りができるように時間の確保に努めてまいります。
	Q18	日々の支援内容を正しく記録し、支援の検証・改善につなげているか。	3.8	日々の記録に加えて、ドキュメンテーション（写真・文章でまとめたその日の様子）などを活用し、お子さまにとって今必要な支援を共通理解していけるよう努めてまいります。
	Q19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適用期間内に次期個別支援計画の説明ができていますか。	4.5	半年に一回のモニタリングにて、保護者様と成長を確認しあいながら、次期の目標を立案してまいります。
	Q20	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っているか。（自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供など）	4.0	コロナ禍であり、積極的な地域交流は難しい状況ではありますが、青空保育を始めとして、公園で地域交流を図れるよう努めてまいります。
	Q21	適切な支援の提供について、ご意見をお聞かせください。		個別支援計画と活動案・活動実施後の振り返りなどを丁寧に行い、より質の高いサービスが提供していけるように努めてまいります。
	保護者との関係構築について	Q22	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4.0
Q23		所属の幼稚園や保育園等と連携し、相互理解や支援のアドバイス等に努めているか。	4.0	感染予防に留意しながら、所属の幼稚園や保育園等との連携に努めてまいります。
Q24		児童発達支援事業所同士で連携をとり、情報共有、相互理解に努めているか。	4.0	保護者様のご同意を得て、可能な限り他事業所と連携し、生活の中で連続性のある支援になるよう努めてまいります。
Q25		児童発達支援事業所から放課後等デイサービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容などの情報を提供するなどしているか。	4.0	就学支援シート（関係機関連携加算Ⅱ）などを活用しながら、お子さまの育ちを引き継いでいけるよう努めてまいります。

保護者との関係機関について	Q26	児童発達支援センターや発達障害者支援センターなどの専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	3.0	現在、外部機関との連携自体が減っています。社会情勢的な難しさもありますので、連携が難しくてもサービスの質が落ちないよう、自事業所内での学びあいを十分に行っていけるようにいたします。
	Q27	地域自立支援協議会や社会福祉協議会など、地域連携を図るような会議に積極的に参加しているか。	3.3	可能な限り自立支援協議会等に参加し、地域連携を図れるよう努めてまいります。
	Q28	障害のない子どもと活動する機会を設けているか。	3.5	地域の公園で、小学生や保育園児と一緒に遊ぶことがあります。地域の一員として、お子さまたちが育っていけるよう、今後とも、そのような機会を大切に支援してまいります。
	Q29	事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営を行っているか。	3.8	今年度から、岡野公園での青空保育と、園舎開放を始めました。児童発達支援事業所として、地域の子育て貢献していけるよう努めてまいります。
	Q30	保護者の子どもへの理解力・対応力の向上を図る観点から、保護者の状況に合わせた適切な支援を行っているか。	4.3	スタッフが支援している場面を、保護者様に見ていただきながら、言葉かけのタイミングなどを体感していただけるようにいたします。
	Q31	関係機関や保護者との連携について、ご意見をお聞かせください。		
保護者やお子さまへの対応などについて	Q32	契約、支援の内容、利用者負担などについて丁寧な説明を行っているか。	4.3	どのスタッフでも同じように説明できるようにしてまいります。
	Q33	保護者からの子育ての悩みなどに対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	4.2	保護者様からいただいた相談内容やそれにどのように助言したかなどスタッフ間で共有し、いつでも、どのスタッフでも気軽に保護者様が相談できるようにしてまいります。
	Q34	保護者同士が集まれる場の提供など、保護者同士の連携につながる支援を行っているか。	3.2	グループ支援の振り返りなどをうまく活用しながら、育児のうれしさや悩みを保護者様同士で語り合えるような場を作ってまいります。
	Q35	子どもや保護者からの苦情があった場合、迅速かつ適切に対応しているか。	4.2	苦情に至る前に解決していけるよう、日ごろから保護者様と十分にコミュニケーションをとり、ご意見を言いやすいような関係づくりに努めてまいります。
	Q36	掲示物やホームページなどで、活動内容やイベント開催告知など、子どもや保護者に対して情報を発信できているか。	4.5	今後も余裕を持ったタイミングで情報発信をしていけるよう努めてまいります。
	Q37	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。(例:分かりやすい言葉がけをしているか、専門用語を使い過ぎていないかなど)	4.3	今後も分かりやすい説明となるように、言葉だけでなく写真や動画を活用して伝えられるようにしてまいります。
	Q38	個人情報の取扱に十分注意しているか。	3.8	主に事務所内の机に個人のファイルが乱雑に置かれているなどといったことのないよう取り扱いに留意してまいります。
	Q39	職員同士の連携や情報共有は適切に行われているか。	3.7	チーム支援の推進のためにも、ご利用者様の情報をスタッフ間で密に共有しあい、いつでも安心してご来所いただけるように努めます。
	Q40	保護者や子どもへの対応などについて、ご意見をお聞かせください。		
	Q41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを、把握できているか。	3.5	運営マニュアルに基づいた対応をしていけるよう、マニュアルの読み合わせを十分に行ってまいります。
非常時の対応について	Q42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか。	4.5	月に一回実施している避難訓練を継続して取り組んでいきます。また実際に起こるであろう災害を想定し、より実践に近い形での訓練となるようにしてまいります。
	Q43	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保するなど、適切な対応をしているか。	3.7	虐待防止研修の実施に加え、日々の支援の振り返り、自身の言葉かけ等が適切であったかスタッフ間で確認するようにいたします。
	Q44	ヒヤリハット事例集を作成して、事業所内で共有しているか。	4.3	現在力を入れて取り組めるようになってきているため、継続した実施となるよう努めてまいります。
	Q45	非常時の対応について、ご意見をお聞かせください。		非常時でも落ち着いて対応していけるよう、マニュアルを理解し実践していけるよう努めてまいります。
	Q46	子どもはつむぎに楽しく通っていると思うか。	4.8	これからも「養護」の視点を大切に、お子さま一人ひとりが居心地のよさを感じながら育っていけるよう努めてまいります。
満足度について	Q47	つむぎの支援を通じて、子どもの変化や成長を実感することがあるか。	4.8	スタッフが感じているお子さまたちの変化を保護者様に伝え、保護者様からも日常の中での変化をお伺いすることで、お子さま自身のありのままの成長を応援していけるようにしてまいります。
	Q48	設問事項に関わらず、ご意見・改善点などなんでもお聞かせください。		自分たちの現状に甘んじず、常により良いサービスとは何かを自問自答し、質の高いサービス提供がしていけるようなチームとなっていくよう努めてまいります。

アンケート実施期間:2022年8月12日~9月5日  
全回答数 : 6

つむぎ 横浜西ローム  
施設長 田中 夏樹